

MOC に基づくこれまでの実績と今後の方針

1 MOC 締結後、積極的に情報交換を行った。

1) これまでの情報提供等

- ・月報の交換 2010 年より毎月 1 回
- ・運営計画の交換 2010 年より毎年 1 回
- ・その他の情報提供等

2) EFSA からの情報提供依頼への対応

デオキシニバレノールとニバレノール (2011 年 1 月)

カビ毒であるデオキシニバレノールとニバレノールについて情報提供依頼を受け、評価書、数値データ表を送付した。

アスパルテーム (2011 年 10 月)

アスパルテームの食品健康影響評価は行っていなかったものの、ネオテームの食品健康影響評価を行っており、その中にアスパルテームについて検討している箇所があり、情報提供を行った。

ビスフェノール A (BPA) (2012 年 2 月)

器具・容器包装専門調査会において、ビスフェノール A に関する健康影響について、2010 年 7 月に中間とりまとめを作成しており、これの英語概要を作成し、WHO にも平成 22 年 8 月に提出していたため、情報提供を行った。また、厚生労働省及び環境省が内分泌かく乱物質についてまとめたホームページを作成しているため、併せて情報提供を行った。

3) EFSA への情報提供の依頼

EU における放射性物質のリスク評価 (2011 年 3 月)

食品中の放射性物質についてのリスク評価を行うにあたりデータの提供を依頼し、ウランのリスク評価書、北欧トナカイ肉のセシウムについての文献等の情報の提供を戴き、我が国の放射性物質に関する評価に活用した。

4) 会議・セミナー等を通じた活動

MOC 締結前

① 食品安全委員会主催セミナーへの出席

2007 年 10 月 : Dr Harry Kuiper (遺伝子組み換え生物パネル座長)

「SAFE FOOD プロジェクトについて」ご講演をいただき、EU における GM の安全性評価、承認状況、輸入状況の他、EFSA のステイメント公表後の反響について意見交換を行った。

2008 年 9 月 : Dr Dijin Liem (科学委員会長) 【食品安全委員会 5 周年記念イベント】

食品中の汚染物質、カビ毒、自然毒、微生物、プリオン、照射食品、クローン動物のリスク評価や遺伝毒性、発がん性物質リスク評価手法の高度化について等幅広い分野にわたり意見交換を行った。

2008 年 10 月 : Dr Arie Havelaar (バイオハザードパネル所属)

「オランダ及び国際的な微生物のリスク評価について」と題し、食品安全及び食品由来疾患に関係した生物学的危害に関する問題を扱うバイオハザードパネルの任務や、WHO 食品由来疾病疫学調査グループについて講演をいただいた。

2009年2月：Dr Ortwin Renn(リスクコミュニケーション部会委員)

食品の安全性に関する一般の方々の不安状況を的確に把握するための方法、不安の要因を明らかにしたうえで、メディアを含めた様々な関係者との間で実施するリスクコミュニケーションの具体的な方法、さらにリスクコミュニケーションの全体的な成果を検証する方法、アクリルアミドの最新の研究についてラウンドテーブル方式での講演会をいただいた。

2009年10月：Dr Alexandre Feigenbaum(食品接触物質パネル座長)

パネルの役割、食品接触物質評価方法、EFSAでのポジティブリスト、危機に対してのリスク評価について講演をいただいた。

2009年12月：協力文書 Memorandum of Cooperation (MOC)締結

2009年12月4日東京・FSCJ 委員長・小泉直子

2009年12月7日パルマ EFSA Catherine Geslain-Lanéelle 長官

MOC 締結後

②食品安全委員会主催セミナーへの出席

2010年10月：Dr Josef Schlatter (汚染物質パネル座長)

オクラトキシン A についての問題点や、リスク評価、特に発がん性が認められる中で閾値の設定が可能とした EFSA や JECFA での考え方についてご講演をいただいた。

③EFSA 主催セミナーへの出席

2010年4月：広瀬専門委員 EFSA ナノテクノロジー・ワーキンググループ (ベルギー)

ナノテクノロジーを利用した食品に関する健康影響評価については国内外で実績がなく、海外において議論が開始され始め、WG が立ち上げられた。ナノテクノロジーのリスク評価方法のためのワーキンググループに参加し、ナノテクノロジーに関するリスク分析方法などについて情報収集・意見交換を行った。

④意見交換会等

2011年10月：食品安全委員会事務局中島次長 EFSA ステークホルダーミーティング (ベルギー)

EFSA の独立性と科学的意思決定プロセスに関するワークショップにおいて科学の信頼性についての議論が行われた。FSCJ の科学の独立性確保のための取り組みについて、利益相反と情報公開の関係について発言を行った。

2012年11月7日、8日：EFSA リスク評価会議 (パルマ)

EFSA10周年記念の一環として、リスク評価における科学の一層の発展を目的として、異なった領域の科学者が一堂に会してリスク評価やリスク評価方法における最新の成果を議論し、また、

EFSA 関係者、広範な科学者等に対する EFSA の教育訓練として行われる、高いレベルでの EFSA リスク評価における限界への挑戦（経験の共有）に関するカンファレンスが行われた。

⑤定期会合

2012 年 11 月 28 日： FSCJ-EFSA 会合（東京）

2 今後の方針等

EFSA との協力関係の更なる発展に向けて、情報交換・協力を更に推進する。

2013 年の主な行事予定

- ・次回 FSCJ-EFSA 会合（2013 年）
- ・FSCJ 10 周年記念（2013 年 7 月）
- ・MOC 延長に向けた調整と延長（2014 年 12 月～）

（*覚書（MOU）は、2013 年 6 月までに文書で協力終了の意図を通知しない限り、2014 年 12 月以降 5 年間延長される。）